

第1日目 2022年9月3日(土)

午前の部 10:00~12:30

テーマセッション(2)

質的データからみる性的マイノリティと家族の現在

一研究の困難・研究と困難

オーガナイザー：志田哲之(早稲田大学)

司会：釜野さおり(国立社会保障・人口問題研究所)

討論者：平森大規(法政大学)

【企画趣旨】

いまや性的マイノリティは時代の寵児であり、寵児にまつわるストーリーにおいて「家族」は不可欠な構成要素となっている。そこで示される「家族」とは、そのあり方や制度を問うものから、当事者たちの家族関係・家族生活など、実に内容は豊富であり、「家族」にはこれでもかというほどの多種多様な 이슈が山積みであることを家族研究者は改めて認識するだろう。

そして誰しもが「家族」にかんする経験を有するために、家族の専門家・非専門家をとわず性的マイノリティと家族について述べることの敷居は低い。だが専門的にこうした研究を推し進めている者は限定的である。現に本学会においては、2000年代から性的マイノリティを扱う報告が断片的に行われてきたが、経年的にみて、学会での関心が高まっているとも、取り組む研究者が増えたとも、ましてや家族社会学の各領域に統合されているとも言いがたい。

その一方でこの敷居の低さは、研究の拡がりや豊かさの胚胎と地続きであるともいえる。日本家族社会学会に属しながら性的マイノリティにかんする研究に取り組んでいる研究者がいることは確かである。またこれまでの研究を家族に関連づけて進めるために本学会に入会する研究者もいる。そこで本セッションでは、このような研究者らが現在進めている研究を集めて報告する。具体的には X ジェンダー当事者の親子関係とパートナー関係、性的少数者の生活困難、子育てとセクシュアル・マイノリティ、HIV 陽性者の不可視の家族についての報告を含む予定である。これらは質的データを利用した性的マイノリティの研究である点で共通するものの、多岐に渡るテーマの研究でもあり、このありさまが性的マイノリティと家族にかんする研究の現状の一角であるといえる。またこれらの研究は、研究を進める上で遭遇する学術的、倫理的、個人的困難や研究しづらさを抱えている点においても共通している。本テーマセッションでは、性的マイノリティと家族にかんする研究の拡がりや豊かさの可能性に充ちた研究が突き当たっている困難も報告に含め、フロアのみなさまとの議論を通じて性的マイノリティと家族の研究の未来を築きたい。